

## 平成 24 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 3 号

病虫害名： チャノキイロアザミウマ

*Scirtothrips dorsalis* Hood

対 象： ナシ

### 1. 特殊報の内容

ナシにおけるチャノキイロアザミウマの発生を都下で初めて確認した。

### 2. 発生経過

- (1) 2012 年 8 月中旬、都内多摩地域のナシ園において、ニセナシサビダニの被害に類似した症状の徒長枝の葉に、小型のアザミウマ類の幼虫及び成虫の寄生を確認した。
- (2) 採集した成虫を、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所に遺伝子型の同定を依頼した結果、チャノキイロアザミウマの在来系統であることが判明した。
- (3) 本種のナシにおける被害については、2006 年に神奈川県、2011 年に埼玉県で特殊報が発表されているが、都内では初めて確認された。

### 3. 形態(第 1, 2 図; 成虫・幼虫)

- (1) 成虫の体長は雌が約 0.9mm、雄は約 0.8mm で全体的に黄色く、背部中央に閉じた前翅が黒い筋状に見える(第 1, 2 図)。
- (2) 幼虫は約 0.3~0.8mm で、黄白色~橙黄色を呈する(第 2 図)。

### 4. 生態

- (1) 年 5~8 回発生し、卵から羽化までの発育期間は 20 で約 27 日、28 で約 15 日、成虫の生存期間は 24 で 20~30 日である。蛹化場所は寄主植物により異なるが、樹冠の隙間や地表面の落ち葉中、土壌表面等である。越冬は、樹冠下の地面や枝幹の粗皮下、落ち葉の下等で、蛹又は成虫で行う。
- (2) 寄主植物は、茶、果樹、野菜、花き等多くの作物が報告されている。

### 5. 被害(第 3, 4 図)

- (1) 被害はニセナシサビダニの症状と似ており、葉裏がカスリ状の黒褐色に変色する。ニセナシサビダニでは徒長枝の先端部での被害が多いが、チャノキイロアザミウマでは、徒長枝全体の葉が変色し、葉が葉表側に湾曲するが多い(第 3, 4 図)。

### 6. 防除対策および注意

- (1) 先端部の葉に幼・成虫が多く寄生するので、徒長枝等を定期的に観察し、早期発見に努める。
- (2) 本種の発生が見られた園では早期に薬剤による防除を行う。薬剤は第 1 表を参考にして葉裏までしっかりかかるよう丁寧に散布する。

### 7. 参考文献

平成 18 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号 神奈川県病虫害防除所

平成 23 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号 埼玉県病虫害防除所

第1表 主な防除薬剤

(2012年11月21日現在)

農薬名	薬剤の系統	使用時期	使用回数
ディアナWDG	マクロライド系	収穫前日まで	2回
コテツフロアブル	その他	収穫7日前まで	2回
ハチハチフロアブル	その他	収穫14日前まで	2回

注1) 農薬を使用する際はラベルの記載事項を確認する。

注2) ハチハチフロアブルは、アザミウマ類での登録。



第1図 雌成虫



第2図 葉上の成虫及び幼虫



第3図 被害を受けた徒長枝



第4図 被害葉